

愛南町立城辺中学校

【選択肢】 A:よくあてはまる B:あてはまる C:あまりあてはまらない D:まったくあてはまらない ?…判定できない					回答数 教職員14 生徒110 保護者68 地域住民42					評価資料		到達率 [肯定評価(A、B)の割合]	アンケート結果(人数)				
【評価規準】 80%以上肯定(A)、60%以上肯定(B)、40%以上の肯定(C)、40%未満の肯定(D)													A	B	C	D	?
重点目標		評価指標 及び目標値		期間	評価	学 校 に よ る 考 察<◇> 及 び 改 善 策 等<◆>											
特色	「対話活動」を重視した	様々な場面における対話を通して、多様な考え方に触れ、自己の考えを深めることのできる生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	B	◇教職員・生徒の肯定評価は80%以上であったものの、保護者の肯定率が80%を切っているためB評価とした。前期と比較すると保護者の肯定率が上昇しており、学校での取組が少しずつ保護者にも伝わっているのではないかと思われる。また、生徒は少しずつではあるものの「対話をつなぐ」ことにも挑戦する者が増えてきており、多くの生徒が「対話活動」を意識していることがうかがえる。 ◆前期に引き続き、自己表現が苦手な生徒に対してのアプローチや、記述することで自分の考えが深まったと自覚できる生徒の育成に努めていきたい。「対話をつなぐ」ことについては、まだまだ改善の余地がある。学級や小グループでの対話を重ね、全校集会等大きな場面でも自分の考えを発表できる生徒を育てていきたい。											
ある学校づくり	行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒の成長を図る活動が行われている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	A	◇評価者のいずれもが90%以上の肯定評価であるためA評価とした。2学期は運動会・文化祭と生徒が主体的に取り組むことができる行事が続いたため、90%以上の高評価につながったと考えられる。生徒は行事を通して大きく成長しており、ほとんどの生徒が学校行事で充実感を味わっている。また、リーダーとなる生徒もあらゆる面で育っており、喜びや苦しみを通して達成感を味わっている。 ◆3学期は3年生から2年生への世代交代や卒業式もあるため、引き続き生徒主体の学校行事にしていきたい。生徒が失敗を恐れず、挑戦し、対話をつないで活動できる学校行事になるよう、教職員は過剰な支援はせず、じっくり見守る等の後追い型の支援をしていく。											
くりの推進	愛さつ城辺の推進	あいさつがよくできる生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	A	◇評価者のいずれもが80%以上の肯定評価であるためA評価とした。特に生徒の評価として、肯定的な評価が100%を達成する高評価となった。教職員・保護者は、中間期から6%以上上がり、90%以上の高評価となった。生徒のあいさつへの意識が高まり、教職員・保護者も実感した結果となった。 ◆地域住民の評価も高評価ではあるが、中間期と比較すると数値が下がっているため、今後のあいさつ運動などでも校内だけでなく、地域に向けた取組になるように工夫に努めたい。											
進	家庭・地域との連携	情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。 目標値:アンケート結果80%以上肯定		年度末	A	◇中間期に引き続き、評価者のいずれも80%以上の肯定評価であったためA評価とした。2学期は学校行事など活動が充実していたため、保護者や地域住民にも各種通信やHPで学校や生徒の様子について多くの発信ができた。また、CATVの学校行事の取材や放送も多くあり、地域の方から感想などを聞く機会もあり、地域の関心の高さも感じた。しかし、行事予定や日程等の連絡が遅くなることもあったため、家庭や地域の立場に立った情報発信を心掛けていきたい。 ◆今後も、各種通信やHP、メディア等の活用を通して学校行事や授業の様子を家庭や地域へ積極的に発信していきたい。また、日頃の学習の様子等も発信できる機会を考えていきたい。											
学校運営協議会委員の所見(年度末)		・対話の重視については、保護者が見る機会がどれほどあるのか。保護者の評価C・Dについては、判断材料がないのではないかと。 ・学校行事等のCATVの放送は、参観できない保護者や地域住民にとってありがたい方法である。					学校の対応(年度末)		学校運営協議会で中間期の学校評価を検討した際に、CATV等を活用して行事や学校生活の様子をアピールしてはどうかとの指摘があった。2学期の学校行事や講演会については、できる限りCATVで放送を流し家庭や地域に公開することができた。さらに授業の様子や通常の学校生活の様子を家庭や地域に知らせる方法を工夫していけば、学力向上や生徒指導についても保護者の理解を得られるのではないかと考える。対話活動についても、家庭や地域への発信を工夫すれば評価も変わるはずである。								